

2007 年度第 2 回 L - ラーニング学習支援システム研究分科会記録

日時：2007 年 7 月 31 日（火）10：00-18：00

場所：早稲田大学（戸山キャンパス）

出席者：阿部（東京歯科大学）、金子（早稲田大学）、小田切（麻布大学）、高野（オブザーバー）、田代（日本女子大学：記録）

1. 事務連絡

配布資料 4 枚：タイムテーブル 1 枚

「2007 年度研究分科会報告大会での発表について」及び別紙資料 3 枚

- ・資料のとおり、研究分科会報告大会は 12 月 13 日（木）・14 日（金）に開催される。会場は八王子の帝京大学メディアライブラリーセンター情報学習室（2 階）である。発表用紙の提出期限が 9 月 28 日である。会場機器一覧も同じく 9 月 28 日である。レジメの提出期限は、配布用が 11 月 16 日、発表用が 12 月 3 日である。

2. Moodle の検討

- ・なぜ Moodle を使うことになったのかの確認
e-learning のプラットフォームの一つとして紹介され、問題の出題形式が様々あること、ゲスト使用だけでなくユーザー登録ができること、体系的学習のページの各項目を、単元の学習用ページとして移せたこと、用語集のページもありインポートができたことなどがあげられる。
- ・他の e-learning サイトの紹介
医療系大学共用試験 CBT：複数の大学で共同構築されている
写真の使用など、ビジュアル面でも参考になる。

3. 問題の検討

- ・なぜ応用編で参考図書を扱うことになったのかの確認
2006-2007 年度ではどの分野のスキル向上を目的とするか、またその目的に沿うシステムについて検討した際に、参考業務のスキル向上を目的とすることに決まった。初めはレファレンスカウンターでのロールプレイを想定したが、設問の内容もシステムも、展開が難しいばかりか見解の一致も困難で、他の設問方法を検討した。参考業務にはツールとしての参考図書の理解が必須という考えから、参考図書を扱う設問とシステムの検討になった。参考質問に対してどの資料に当たるかの、当たりをつけられるようなトレーニングを考えることになった。
- ・選択式問題について：問題の関連づけができると良い。
1 の問題を回答したら、2 の問題では 1 の残りの選択肢から選び、3 の問題ではさ

らに残りの選択肢から選ぶという設問があると面白味があるのではないか。
システムとしてはその機能は Moodle には無い。予め用意する選択肢を工夫することになる。

< 単元毎の小テストについて >

- ・問題班の宿題にしたが、どの単元か指定をしなかったので、バラバラに作成してきたことと、単元の説明文に沿った確認テストになるよう再度宿題にする。
1 単元に 1 問以上。この問題は携帯版小テストに流用することを念頭に問題文は 25 ~ 30 文字とし、選択肢の文章も簡潔にする。問題は作成次第各自で Moodle にアップする。アップしたことをメーリングリストで通知すること。分担は以下の通り。
受入：金子、 ILL：小田切、 雑誌：高野、 図書館システム：阿部、
参考：豊田、 電子資料：佐藤・守重（どちらかでも可）、 選書：田代
（Xoops のページに Moodle へのリンクの設定：阿部）
作成期限は 8 月末。次回分科会では印刷した 1 部の紙面上でブラッシュアップする。

< 携帯インターフェイスについて >

- ・1 問毎に正解ページの最後に「この問題は役に立ちましたか？」を設問し、必ずはい/いいえ/わからない のどれかに答えてもらって次の問題が表示されると、作成側であるこちらに反響があって良い。
- ・携帯サイトについて調査担当：阿部 Moodle での携帯サイト可と 8 月 2 日報告あり

< 応用編：参考図書の設問について >

- ・先にテーマを設けて、そのテーマの資料群 = 回答群をつくり、それらの資料で何が調べられるか、どう使うかを問題にする。目的は、このテーマと言えばこれらのツールという、おおよそのあたりをつけられるようになること。
- ・資料群は基本的なレファレンス内容で一般教養的な分野のテーマに限る。
- ・テーマ：史料群について、難易度の高い問題と低い問題の、最低 2 問を作る。
学会・学会刊行物：今回の宿題で小田切さんが提出したイメージ
気象・環境：昨年第 3 回で守重さんが宿題に提出した理科年表・環境白書など
人名
語源
統計：日本統計年鑑やユネスコの統計など
近代日本文学
現代日本語：国語辞典・用語辞典・イミダスなど
ほか
1 人最低 2 テーマ作成。つまり最低 4 問作成。担当は金子、小田切、守重、田代。

どのテーマを担当するかは、 は小田切さん、 は守重さん、他は公表順。
作成期限は小テストと同じく 8 月末。メーリングリストで公表する。刺激になるので、途中経過でも質問でもメールで知らせていくこと。

< 基礎編について >

- ・「ピーエイありますか？」などは、音声を書いたら具体的で面白い。誰かに読み上げてもらう。
- ・他にも音声や動画や画像などを効果的に使えると良い。
- ・ブレンデッドラーニングになると良い。

サイト参照：Blended Learning Guide

<http://webjunction.org/do/DisplayContent?id=13893>

Quick Guide と称して各要素が紹介されている。

1) Discussion Boards

2) Instant Messaging/Chat

取り入れれば、バーチャルオフィスアワーになりうる。

3) Podcasting

講義、インタビュー、

4) Rapid E-learning Software Tools

LMS (Learning Management System) である Moodle はここに該当。

5) Web Conferencing

- ・携帯サイトを備えることは、当分科会として独自の提案になるのではないか。
- ・携帯サイトについては日本が先進しているのではないか。
- ・複数の要素をそなえてブレンデッドラーニングにするために、動画を用いて 3) の要素を備える。YouTube を使って、ブッカーのかけ方を見せたい。
- ・動画は QVGA サイズで、100MB 程度に自動的に変換されてアップロードされる。
- ・ビデオ撮影より、携帯電話で高画質の設定にして動画撮影をしても大丈夫かもしれない。

8 月中に携帯電話で撮影する。(担当：田代)

- ・ブッカーのかけ方の動画があるか、Google で検索してみたが見つからなかった。
- ・PubMed のヘルプには検索方法と検索結果の見方を案内する動画がある。

4 . 報告大会に向けての確認

- ・11 月の分科会で予行演習をする。
- ・目的は図書館員のスキル向上のためのブレンデッドラーニングのシステム研究
- ・応用編の対象分野は、ツールとしての参考図書理解を目的とした参考業務のスキル向上

- ・システムについては、CMS (Contents Management System) である Xoops から LMS である Moodle へ。TakaQ の次のステップとして Wiki を含む Xoops を使用し、さらに Xoops をベースとした e-learning のプラットフォームである Moodle を研究してきた。携帯サイトの研究にも発展した。
- ・コンテンツについては、クイズと体系別学習より継続するため興味を引くための面白味を求めたロールプレイから構想を始め、ロールプレイの設問と展開についてストーリーの面でもシステムの面でも困難なことから、何かクリアをする達成感のあるものを構想して単元と小テスト、基礎編と応用編を設けることとなった。

5 . 次回開催予定

9月4日(火) 10:00-16:00 日本女子大学図書館(目白)5階多目的室

8月末までの宿題をブラッシュアップする。

9月28日提出締め切りの発表要旨の作成。

以上